

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100197		
法人名	社会福祉法人 介援会		
事業所名	あおやぎグループホーム		
所在地	青森市青柳2丁目9-28		
自己評価作成日	平成29年1月8日	評価結果市町村受理日	平成29年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成29年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市の中心部に位置しており、交通のアクセスや移動に適している。 個人個人の意思を尊重するための支援を理念としており、利用者様個々が意思を主張できる、家族のような関係性を目指し、コミュニケーションを重点に置いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは青森市の中心部に立地し、隣にはスーパーマーケットがある他、いざという時の避難所としての小学校や市民会館等も近隣にあり、立地条件に恵まれている。 職員は利用者一人ひとりの意思を尊重した支援に取り組んでおり、できるだけ自分の力で暮らしていけるサポートに努めている他、ホームでは犬や熱帯魚、カメを飼い、利用者の癒しについても工夫がみられ、ホーム内は明るく楽しい雰囲気に包まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印					
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない				
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある				3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くいない				
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスをふまえた理念があり、実践をしている。	地域密着型サービスの意義を反映させたホーム独自の理念を作成しており、地域との親睦、交流を図り、日々のサービス提供に取り組んでいる。また、職員間で理念の共有を図るために、ホールに掲示している他、実践につなげる取り組みとして、ケース記録の中にファイルし、常に確認できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、事業所の行事に参加していただいたりと、日常的な交流をしている。	町内会の行事に参加している他、ホームの夏祭りや餅つきに地域住民を招待する等、積極的に地域に関わりながらホームを理解していただくと共に、交流を図るための働きかけを行っている。また、近隣への散歩等を通じて、地域住民と顔見知りになっており、時にはホームのことを聞きに立ち寄る等、関心を持たれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症の理解をしていただくよう、話し合いの場を設けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活かして、利用者様へのサービスについて報告をし、意見をいただいている。	運営推進会議は2ヶ月に1回を目途に、年6回開催しており、町内会長や民生委員、家族、地域包括支援センター職員等がメンバーとなっている。会議では、利用者の現況や行事、避難訓練、感染症等について報告や情報交換を行っており、出された意見はサービスの質の向上につなげるように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と連絡を密にとり、協力関係を築くように取り組んでいる。	自己評価及び外部評価結果等を提出し、ホームの実情やサービスの取り組み等を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでおり、利用者の利便性の向上のために、医療、生活保護、成年後見、介護保険等、必要に応じて連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃より身体拘束についての研修を行っており、全職員が何が身体拘束になるのかを理解している。	身体拘束は行わないという方針の下、虐待に関する事も含めて勉強会を行っており、職員は身体拘束の内容や弊害について十分に理解し、日々のサービス提供に努めている。帰宅願望がある場合は利用者と十分にコミュニケーションをとり、気分転換に散歩に付き添い、見守りを行っている他、日頃から地域住民と交流を行っており、万が一の無断外出時には協力が得られる関係を構築している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日頃より虐待についての研修を行い、虐待が見過ごされることがないよう、注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでおり、活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定時は利用者様やご家族様に十分に説明し、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で、運営に関する利用者様、ご家族様等の意見の反映を外部者へ表せる体制である。	日々の関わりの中で、また、面会時等、利用者や家族と十分にコミュニケーションをとり、信頼関係を築きながら、意見や要望等を出しやすいよう働きかけている。また、意見の表出が難しい利用者については、ケアの中で十分に観察すると共に、面会時に家族と情報交換する等して、意見等の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議にて職員の意見、普段から提案を聞き入れる体制を整えている。	月1回の全体会議、ユニット会議、申し送り時、その他随時、ホームの運営等に関する職員の意見を聞く機会を設けており、レクリエーションや行事の行い方等、職員から出された意見を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働けるよう、労働環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスや内外の研修を利用し、働きながらステップアップしていく仕組みを整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会を作っており、サービスの質の向上につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用を開始する前にも事前に面談したり、本人の意思を尊重すべく、安心を確保するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が希望として思っている事に近づけるよう、本人と相談しながら、サービスの利用を開始している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様とご家族様の希望と現状のすり合わせをし、必要としている支援を見極め、ご家族様や本人に確認をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の通り、家族のように接し、職員が介護しているという一方的な立場にならないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご家族様と共に協力し、本人を支え合うよう にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた事柄、場所、人の関 係が途切れないよう、支援に努めている。	入居時のアセスメントや日々の会話から、利 用者がこれまで関わってきた人や馴染みの 場所を把握している。家族等からの電話の際 は子機を使い、居室でゆっくり話ができるよう に支援している。また、職員からも働きかけ、 ドライブや買い物等、利用者にとっての馴染 の場所に出かけられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者様同士がコミュニケーションを取れる よう、職員が間に入り、孤立しないようにして いる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じて、本人 やご家族様の経過をフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	一人ひとりの意向を都度聞き、サービスが 意向に沿っているかを常に吟味している。	入居時のアセスメントや日々のコミュニケー ションを通じて、利用者の希望や意向の把握 に努めており、思いの表出が難しい利用者 には寄り添い、表情や行動から察し、利用者の 視点に立って支援するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	常に、現状に見合ったサービスを提供して いるかどうか吟味し、日々の暮らしを全職員 が理解できるよう、記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日を記録に残し、サービス の向上につながるよう、詳細に書いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族様を含め、担当者だけでなく、全職員で参加できるよう、モニタリングを開催している。	ホームでは、ケアプランを確認しながら業務記録を行えるように台帳を整備し、管理者、担当者、ケアマネジャー、看護師等でカンファレンスを行い、職員の気づきや意見等も反映できるように検討している。また、利用者の日々の会話から意見や思いの把握に努め、計画見直し時にモニタリングを行い、現状に即した、個別性のある介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録が同じような内容にならないよう、会話形式や状態を詳細に記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスにとらわれず、現状に必要としているものは希望通り実践し、ケースに残している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、本人もそれを利用できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族様はかかりつけ医を利用段階から自由に選ぶことができ、本人やご家族様と一緒に病院に立ち合い、スムーズな医療が受けられるよう支援している。	利用者のこれまでの受療状況を把握している他、連携医療機関の月2回の往診についても説明し、利用者や家族と相談しながら、納得の上、希望する医療機関を受診できるよう支援している。認知症、眼科は専門医の受診、歯科は訪問診療を受けており、家族の協力の下、適切な受療ができるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護職員と情報を共有し、利用者様個々が適切な看護を受けられるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には、病院関係者との情報を交換し、ご家族様にも伝えて情報交換し、把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時より、重度化、終末期の説明をしており、経過の状態から、ご家族様、本人と話し合い、順々に段階的に説明している。	契約時に、利用者の重度化や終末期の対応について、ホームの方針を説明しており、看護職員も配置され、体制を整えている。必要に迫られた時は、利用者や家族の意向を踏まえた上で、医療機関や家族と段階的に話し合い、意思統一を図りながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は応急処置、初期対応の訓練を行い、前にあった事柄についての対応を全職員が把握できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や災害時の避難方法を全職員が把握し、実行できる状態にしている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行っており、火災だけではなく、地震や停電も想定して実施している。ユニット別の避難訓練は、他ユニットの職員が見学する中で実施しており、講評後に勉強会も行い、気づきを次回に活かせるように意見を交わしている。また、町内会長をはじめ、近隣住民から協力が得られる体制を構築している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語を使うばかりではなく、時には家族のような言葉を選んで使っている。	職員は利用者の話を否定せず、後回しにすることなく、まずは話を聞く姿勢で対応に努めている。また、利用者一人ひとりを尊重し、プライバシーを損ねないように配慮しながら、時には親しみを込めて津軽弁で話しかける等、利用者が楽しい生活を送れるように、日々の支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己主張できる関係づくりを行っており、なるべく希望に沿えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合ではなく、利用者様の意向優先の支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に沿ったおしゃれができるように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	茶碗拭きやお菓子作りの手伝い等、食事をただ食べるだけではなく、作った満足感等を味わっていただけるように支援している。	献立は、利用者の希望や好み、苦手なもの等に配慮し、職員が当番を決めて作成しており、調味料を好みに合わせて目の前でかける、身体状況に応じて形状に配慮する等、食事を楽しむための工夫に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1ヶ月分の食事摂取量や水分摂取量をすぐに把握できるよう、表を作って工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	汚れやにおいを生じないようにケアを促したり、必要に応じて介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日のトイレやおむつ交換をよく観察し、少しでも自立に近づけるように支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録して活用し、可能な限りトイレで排泄できるよう、パターンに応じて誘導しており、職員間で話し合い、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握や、食事の中で便秘の予防になるような食事メニューの作成等、個々に応じた予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	最低週2回の入浴日は決まっているが、希望があれば、いつでも入浴できるような体制ができている。	入浴日は基本的に週2回としているが、希望に応じて、随時入浴できる体制となっており、利用者個々の身体状況に応じて、シャワーチェアを利用する等、安全に留意している。職員は利用者の羞恥心や負担感を理解し、1対1で対応しており、無理に勧めることなく、声がけに気を配り、タイミングを見計いながら、個々に応じた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせ、状況に応じて休息したり、一服したりできる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師から直接説明を受けたり、質問したりと、一人ひとりが理解し、服用後の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の馴染みの物を大事にし、一人ひとりが大切にしてきた事柄は何かを理解した上で、楽しみ事の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿えるよう、スケジュールや体調を考慮し、ご家族様や地域の協力を得て支援している。	日々の会話の中から、利用者が行きたい場所の把握に努めており、隣にあるスーパーへの買い物やホームで飼っている犬の散歩等、利用者の楽しみや気分転換につながるよう、日常的に外出する機会を設けている。また、季節毎の花見等、行事でのドライブの時は家族にも参加を呼びかけ、協力を得て出かけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	状況に応じて、利用者様にお金を持っていたり、トラブルにならないよう、職員が観察や支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や友人への電話は、積極的に話していただけるよう支援したり、ご家族様とのやりとりもできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の混乱がないように、刺激を与えるような物は観察の後に撤去したり、居心地良く過ごせるようにしている。	ホーム内はオール電化であり、冬期間の乾燥対策に加湿器が設置され、環境管理に努めている。ホールにはピアノがあり、熱帯魚や亀、犬も飼われ、利用者の癒しとなっている他、小上がりやソファも適宜に配置され、利用者がゆったりと居心地良く過ごせる空間づくりを行っている。また、ユニット毎に絵画や花、手作りの壁画が掲示され、季節感を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の気持ちの変動等を観察し、席の移動や、ソファに座っていただいたり、一つの場所以外に居られる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室には個人の物しか置かず、ただ寝だけの部屋にならないように、本人が入って居心地が良い物にしている。	使い慣れた馴染みの物の持ち込みを働きかけ、必要な物や衣類等も季節で入れ替える等、家族の協力も得ながら居室づくりを行っており、利用者や家族と相談しながら、居心地良く過ごせるような工夫を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりができる事、やれる事を活かせるよう、バリアフリーの造りになっており、安全に自立を目指せるように工夫している。		